



南海トラフ巨大地震

南海トラフ巨大地震とは

日本列島の太平洋沖、「南海トラフ」沿いの広い地震域で連動して起こると警戒されている**マグニチュード(M)9級の巨大地震**のことです。(南海トラフ=静岡県の駿河湾から九州東沖まで続く、総延長約770キロメートルの溝(トラフ)に沿った活断層)

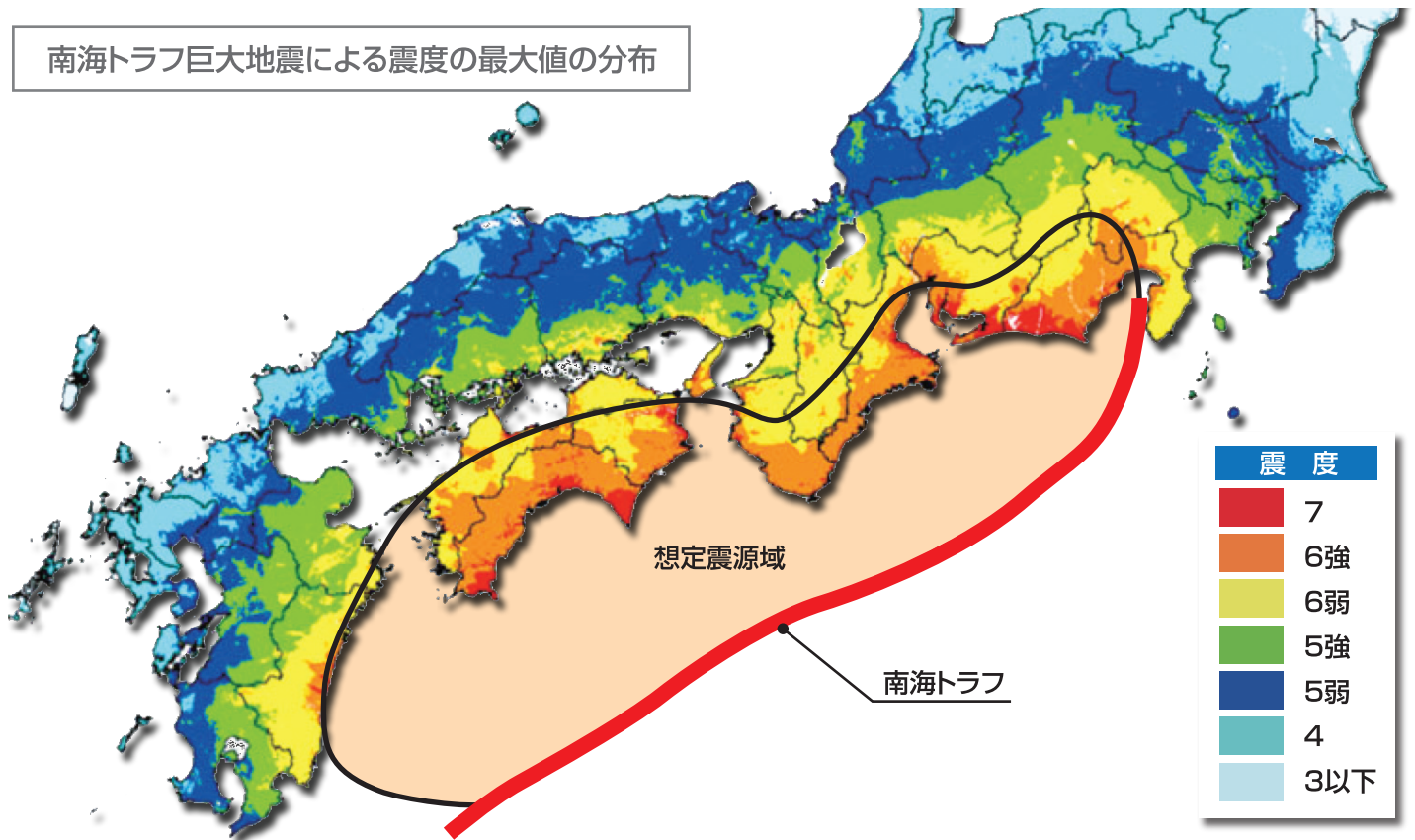
南海トラフ付近では、過去にM8級の地震が100~200年ごとに繰り返し発生しています。東日本大震災後、国は、南海トラフ巨大地震による地域ブロック別の被害想定を発表し、それを受けて愛媛県は、独自の地震被害想定を発表しました。この報告書によると、県内の経済被害は16.2兆円、**松前町内における全壊建物件数は8,245棟、死者258人(いずれも最大値)と予想されています。**

この数値は、これからも耐震化等の対策を講じなかった場合の数値であり、**自助・共助・公助それぞれが防災・減災対策に取り組めば、地震の規模に関係なく被害量は確実に減らすことができるとされています。**



南海トラフ巨大地震の震度分布図

南海トラフ巨大地震による震度の最大値の分布



地震規模の比較 (M=マグニチュード)

	南海トラフ	東日本大震災	スマトラ沖地震	関東大震災	阪神大震災
地震規模	今回の想定 M9.1	2011年3月11日 M9.0	2004年12月26日 M9.1	1923年9月1日 M7.9	1995年1月17日 M6.9
震源域面積	14万km²	10万km²	18万km²	5千km²	気象庁マグニチュードは M7.3 675km²
死者・不明	32万3000人	1万8716人	28万3100人以上	10万5000人以上	6437人